第6学年3組　国語科学習指導案

1 　単元名・教材名　熟語の成り立ち

2 　児童の実態と本単元の意図

　　本学級の児童は普段の生活より読書や漢字練習、意見文を書くことを通じて熟語に触れている機会がある。その際に、辞書などを活用しながら学習している場面が見られた。しかし、熟語の成り立ちまで考えていた児童はあまり見られなかった。このことを改善することで、児童がさらに熟語に対して理解を深め、より興味関心を抱けるようになると考えている。

　　本単元では、2字や3字、4字以上の熟語の成り立ちの理解を深めることができるようになっている。また知っている熟語をつなげることで長い熟語をつくり理解を深めることができるよう構成されている。

　　本単元を指導するにあたって、小学校学習指導要領国語編〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の(1)「イの(エ) 語句の構成，変化などについての理解を深め，また，語句の由来などに関心をもつこと。」と「ウの(ア) 第５学年及び第６学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。」に重点を置き指導を行っていく。単元の導入では、共通の熟語を全員で読み取り、熟語の構成について指導する。その後、例題や教科書に載っている作品から自分で選び出し、熟語を調べさせる。そのうえで、4字以上の熟語の読み取りや、知っている熟語をつなげて、新しい熟語をつくるようにしていく。

　　本時では、例題の2字や3字の熟語を読み取り、その成り立ちを理解し、練習問題や教科書の作品を使って、自分で成り立ちを考えることで熟語に対する理解を深める活動を行う。具体的には、例題を使って全員で2字の熟語の成り立ちについて学ぶ活動を行う。そして、練習問題を行い、知識を確認し、教科書の『平和のとりでを築く』から、熟語を自分で探し出し、成り立ちを考えるようにする。その後、3字の熟語について成り立ちについて学習する。児童からどのような3字熟語があるかを聞き出し、どの分類になるかを考えるようにする。これらの活動を行う際には、本時までに学習した熟語を理解していることが重要になる。本時では、熟語の成り立ちを確認し、熟語から成り立ちを読み取れるように考え方を確認しながら学習を進めていく。

　　高学年になり、読み解く文章も高度化している。今回の学習を通じて、熟語の意味を推測しやすくし、より深く理解できるようになるものと考えている。

3 　単元の目標

　(1)熟語の構成に興味を持ち、進んで調べることができる。　　　　　　(国語への関心・意欲・態度)

　(2)熟語の構成などについて理解を深めることができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4　単元の評価規準と学習活動に即した評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | ア　国語への関心・意欲・態度 | オ　言語についての知識・理解・技能 |
| 単元の評価規準 | ・さまざまな構成の熟語について、進んで調べようとしている。 | ・語句の構成やその理解を深めている。 |
| 学習活動に  即した評価規準 | ①熟語の構成について辞書をつかい調べようとしている。 | ①教科書から熟語を抜き出し、分類している。  ②友達と熟語の分類を確認しあっている。  ③熟語の構成の違いを理解している。 |

5　指導と評価の計画（2時間扱い）　　本時1／2時

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時 | 学習活動 | 学習内容 | 評価規準・評価方法 |
| 1 | ○全員で2字の熟語、3字の熟語の成り立ちを確認する。 | ○熟語の成り立ちの確認 | アの①・オの①  ・活動の取り組み方による考察  ・発表の内容による考察 |
| 2 | ○4字の熟語の成り立ちを確認し、自分たちで熟語を作成してみる。 | ○熟語の作成の仕方 | アの①・オの②  ・活動の取り組み方による考察  ・発表の内容による考察 |

6　本時の学習指導　（本時1／2時）

　(1)目　標

　○熟語の成り立ちについて理解し、分類することができる。

　(2)評価規準(1時間の授業に即した具体的なもの)

|  |  |
| --- | --- |
| ア　国語への関心・意欲・態度 | オ　言語についての知識・理解・技能 |
| ①熟語の構成について辞書を使い調べようとしている。 | ③熟語の構成の違いを理解している。 |

　(3)展　開　(○は指導上の留意点　　　内は評価を表す。)

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学習活動 | 学習内容 | 指導・援助と評価の工夫 | 時間 |
| 1本時の学習課題をつかむ  熟語の成り立ちを知ろう。  2　2字熟語の成り立ち  　を考える。  3　教科書の作品から２字熟語を探し分類してみる。  4　班をつくり、友達と確認しあう。  5　3字熟語についての成り立ちを考える。  6　本時のまとめ | ○学習の進め方  ○熟語の構成の理解  ○熟語の分類の仕方  ○熟語の分類の仕方  ○熟語の構成の理解  ○まとめ | ○学習課題を提示し、狙いを明確にする。  ○４つの分類があることを例題を用いて理解させる。  ○練習問題を行い理解の定着をうながす。  ○『平和のとりでを築く』を用いて自分たちで熟語を探させる。  ○分類の仕方などを伝えておきスムーズに取り組むことができるようにする。  アの①熟語の構成について辞書を使い調べようとしている。  オの③熟語の構成の違いを理解している。  《手だて》  ・分類を難しそうにしている児童には、何がわからないのか確認する。場合によっては教師も一緒に考える。  ・適切に活動を行えているものは称賛し、引き続き活動を行うよう促す。  ・分類があやふやになっている児童に対して、成り立ちの違いを隣の児童と確認させる。  ○互いに確認するようにし、見直すよう助言する。  ○意見が分かれたものがあるときは、全員で根拠を発表しながら考えさせる。  ○3つの分類に分かれることを例題を用いて確認する。  ○次時の学習活動について伝える。 | 5´  10´  10´  5´  10´  5´ |

|  |  |
| --- | --- |
| 次時の学習内容 | ○熟語の成り立ちの理解の確認と熟語の作成。 |

7　板書計画

|  |
| --- |
|  |

8　備　考　在籍児童数40名